

令和３年度第４回秋田県地域公共交通活性化協議会の概要

日 時 令和４年２月１８日（金） 午後１時３０分～午後２時３０分
場 所 各委員の職場・自宅等からのリモート開催
参 集 委員２４名中１５名参加（９名については後日書面協議）

【概 要】

１ 開 会

委員２４名中代理を含む１５が参加し、残り９名についても後日の書面協議について承諾があり会議が成立

２ あいさつ

小松・県交通政策課長があいさつ
小松課長が議長代理として議事進行

３ 協議事項

（１）秋田県地域公共交通計画（案）について
当日資料１～２に基づき、事務局が説明

《質疑等》

議長

ただいまの説明に対しご質問・ご意見はないか。（なしとの反応）

それでは、ご意見等なければ、一部今後修正すべき点はあるものの、秋田県地域公共交通計画（案）について本協議会として承認してよろしいか。（異議なしとの反応）

４ その他

令和４年度地域公共交通関連事業について資料に基づき、事務局が説明

《質疑等》

議長

ただいまの説明に対しご質問・ご意見はないか。（なしとの反応）

何もないようであれば、対面で実施する会議としては今年度最後の機会であるため、委員の皆様から一言ずつお願いしたい。秋田運輸支局から名簿順にお願いしたい。

玉田委員（秋田運輸支局）

計画策定を通じて今後の公共交通のあり方が少しずつ見えてきたのではない

かと感じている。また、公共交通の土台となる人材確保について、体験会の実施などの予算措置まで配慮いただきありがたい。

公共交通の現状が厳しい中においてもみんなで頑張っていくことが必要である。計画を策定して終わりではなく、スタートラインに立ったということであり、今後どのように実のあるものとしていくかが重要となる。先日新聞にも掲載されたが、地域公共交通を住民の方が乗って守っていくという意識付けをしていくことが何よりも重要であり、そういった意識が広がっていくことを願っている。

議長

続いて、市町村から大館市にお願いしたい。

本多委員（大館市都市計画課）

今回の計画策定にあたり県の地域間幹線系統の乗り込み調査に合わせて、当市も北秋田市と連携して乗り込み調査を行った。これまで広域連携とは言ってもつながりをこれまでなかなか見いだせなかったが、今回のデータ取りが連携のきっかけとなったことは良かった。今回把握したニーズに今後どのように対応していくかという課題はあるが、他の市町村との広域連携も進めてまいりたい。

また、県の来年度事業の説明があったが、キャッシュレス化について県が当初予算で予算化していただいたことで市町村が強調する後押しとなる。

議長

横手市はいかがか。

神原委員代理（横手市経営企画課）

今回の県の計画は内容の濃いものであり、市町村にとっても参考となる。当市の現行の網形成計画は令和5年度で計画期間が終了となり、地域公共交通計画を令和4、5年度で策定することとなるが、どの市町村も同じような課題を抱えている。計画策定後はその課題に対して施策をどう実行していくかが重要となることから、市町村も県や協議会の構成員と連携して取り組んでまいりたい。

議長

大館市と横手市からコメントをいただいたが、計画で示している課題は、県と市町村のどちらが頑張るということではなく、連携して取り組んでいかなければならないものだと考えている。県も最大限努力したいと考えており、各市町村においても一緒に取り組んでいただきたい。

続いて、県都市計画課に一言お願いしたい。

梅井委員代理（県都市計画課）

地域公共交通は当課で推進しているコンパクトシティと密接な関係があるため、当課としても地域公共交通と連携した取組を進めてまいりたい。

議長

続いて交通事業者として、バス協会に一言お願いしたい。

齋藤委員（秋田県バス協会、秋田県観光連盟、羽後交通）

基本理念で、地域公共交通について行政・事業者・地域が連携して支え合うということを大きく謳っていただきありがたいと感じている。

住民の方に公共交通をどうやって認識していただくかが重要となる。現時点で自力で自由に移動できる方々は公共交通に興味が無いという方も多いが、そういった方もいずれは移動の足を必要とする時が来るだろうし、そのときにはさらに人口も減っていることが予想される。そういった状況に備えて今からより良いものを考えていくことが必要である。

議長

ハイヤー協会はいかがか。

佐々木委員（秋田県ハイヤー協会）

タクシー業界では、乗務員不足・高齢化で事業承継がなかなか進まず廃業を余儀なくされる事業者もあり大変危惧している。また、コロナ禍がさらにそういった状況に拍車をかけている。そのような中で県からは様々な支援をいただいております。

公共交通空白地を無くしたいと思っているが、それには自治体とのつながりが不可欠であり、計画に基づいてできることを積極的に取り組んでまいりたい。

議長

レンタカー協会はいかがか。

藤島委員代理（秋田県レンタカー協会）

コロナ禍の影響によりレンタカーも大分苦しい状況にあり、県はじめいろいろなところからご支援をいただきなんとか事業を継続している。

ややもするとレンタカーが公共交通のパイをむしり取るように思われるかもしれないが、バスや鉄道、タクシーではカバーできない部分をレンタカーのネットワークで補完するような形で貢献できないかと考えている。

計画は出来上がったが、今度は実行していく段階となる。計画を実行した結果を検証し、反映・修正しながらじっくりと取り組んでいくことが結果として

一番の近道である。

各事業者や業種、地域などの壁を超えて一体となって地域公共交通を守り育てていく意識を作り上げていくことが計画の一番の柱であり、レンタカーという立場から少しでも貢献できるように取り組んでまいりたい。

議長

先ほどバス協会からバス事業者を代表してコメントをいただいたが、各バス事業者からコメント等あるか。(なしとの反応)

それではＪＲ東日本はいかがか。

外山委員代理（ＪＲ東日本秋田支社）

計画の策定に当たられた皆様、特に県の皆様に交通事業者として御礼申し上げます。完成した計画を元に、協議会の皆様と連携して地域公共交通の活性化に取り組んでまいりたい。今後ともよろしくお願いします。

議長

続いて、由利高原鉄道の萱場委員に一言お願いします。

萱場委員（由利高原鉄道）

我々は地域の活力を上げるために必要不可欠であるとの自負を持ちこれまで取り組んできた。それなりの成果も上げてきたと自覚しているが、働けど我が生活楽にならざりという状況である。これからも他事業者との連携も含めて頑張ってまいりたいと考えており、いろいろな面でご指導・ご支援賜りたい。

先日、地方鉄道のあり方に係る提言が６月までに取りまとめられるとの報道があったが、変な方向に向かわないよう願っている。今後国に対するいろいろな説明も必要となってくると思われるが、計画の内容を活用したい。数字の根拠など必要となった場合のご協力をお願いしたい。

議長

高等学校ＰＴＡ連合会はいかがか。

湊屋委員（秋田県高等学校ＰＴＡ連合会）

利用者の立場とすれば地域公共交通はないと大変困る。コロナ禍による利用者減など交通事業者は大変ご苦労されていると思うが、地域のため、生徒のためにも是非ここで踏ん張っていただきたいし、経営状況が上向くことを願っている。

来年度実施予定の高等学校訪問キャラバンについては、まだ詳細が決まっていはいないと思うが、内容の調整を詰めて進めてほしい。

また、来年度の予算にはないようだが、通学に秋田内陸縦貫鉄道を利用する

高校生は以前よりは減ってきているとは言えまだ多い。公共交通機関に対する支援というのはあると思うが、家計にも相当の負担があることから利用者に対する補助制度は考えられないか。

議長

学生への支援という観点では、北秋田市で定期券購入費用に対する補助を行っており、内陸線についてはそういった形で県と市で役割分担を行っている。

また、由利高原鉄道でも今年度から定期の割引を行っており、そのような取組の結果や良い点などをしっかり横展開し取組を広げてまいりたい。

引き続きご助言をいただきながらより良いものとしてまいりたい。

ほかにご意見・コメント等ないようであれば、本日の議題は全て終了となるが意見等ないか。(なしとの反応)

5 閉 会